

【別紙様式2】

平成27年度茨城県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表(全日制)

目指す 学校像	歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。						
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標			達成 状況		
<p>本校に相応しい「文武両道」を目指しながら、生徒の希望進路の実現に向けて継続的・組織的指導を実践することにより、今年度も現役浪人を合わせて国公立大合格者数で100名を維持することができた。</p> <p>また、多くの部活動が県外大会出場を果たし、引き続き総合体育大会の総合上位校の表彰を男子の部で受けることができた。</p> <p>本校の三大プロジェクトである「Rプログラム」「筑波大学研究委員会」「R-MASTプロジェクト」に加えて、文科省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され、理数系教育を充実させて、自ら課題を設定し探究していく力を伸ばしていく活動も軌道に乗ってきた。今後は、外部機関との連携にさらに積極的に取り組んで探求成果を深めていく必要がある。</p> <p>教員の側としては、学習指導要領の改善事項を適切に反映させるとともに、観点別学習状況の評価を定着させると同時に、授業力の向上をさらに目指す。</p>	個に応じた指導の充実を図り、「確かな学力」を育む	(1)生徒が自ら課題を見だし、主体的に学び続け、問題解決できる能力を育成する。 (2)学習意欲の向上につながる指導の工夫とともに「授業力の向上」に努める。 (3)授業、土曜講座、課外、自学自習を有機的に結びつけ、自主的、主体的な学習習慣の確立を図るとともに、家庭学習の定着に努める。			A		
	キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の希望進路の実現に努める	(1)Rプログラムに基づく系統的・組織的なキャリア教育により、将来目標をより明確にし、学習意欲の向上につなげる。 (2)丁寧な個別面談を行い、生徒一人一人の「進路設計とその課題」を明確にし、最後まで諦めずにチャレンジし続ける心を養う。 (3)学年間・教員間の連携を深め、広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。 (4)「いばらき版スーパーサイエンスハイスクール(ISH)」事業の効果的な運用を図る。 (数値目標:東大・京大及び国公立大医学部医学科複数合格、筑波大20名以上合格、国公立大100名以上合格)			B		
	豊かな心を育む教育の推進	(1)規範意識や道徳心の育成等による豊かな心の育成に努めるとともに、「いじめ」を絶対に許さないという意識の醸成に努める。 (2)教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し、教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3)生徒の心情の理解を深めるとともに問題行動の早期発見・早期解決に努める。			A		
	特別活動及び学校行事の充実	(1)文武両道において、前向きに取り組める生徒を育成する。 (2)ホームルーム活動、部活動及び生徒会活動を充実させることで、生徒の主体性を育成する。			A		
	グローバルに活躍できる人材の育成	(1)「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を通して、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図る。 (2)国際広隆寺魚を推進し、異文化を体験することによって、グローバルな視野を広げる。 (3)英語によるディベートの推進。英語によるプレゼンや英語検定の促進。			A		
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題	
教科 指導	個に応じた指導計画の改善充実	生徒の興味・関心を引き出し、意欲の向上に繋がるような学習指導計画を作成する。			A	A	教科・科目間の連携を高め、学期間、学年間をシームレスに移行していけるような指導法の工夫に努めていきたい。
	校内研修の改善充実	生徒の興味・関心に応え、意欲の向上に繋がるような教材等の選択・活用、授業展開の工夫改善に努める。			A		
		公開授業の実施等により学習指導の質的向上を目指した校内研修体制を改善する。			B		
	指導に生かす評価の改善充実	筑波大研究委員会を核にした指導力向上と学校力のレベルアップを図る。			A		
		指導の過程における評価と多面的な観点からの評価を重視する。			A		
		指導計画・指導方法等の改善に生かす評価を重視する。			A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科 国語	【1年】現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎的力を確立させる。	計画的に漢字と古文単語の小テストを実施し、大学受験にも対応できる語彙力をつけさせる。	A	A	推薦・国公立二次試験等における小論文指導について、今までの蓄積を教科内で共用し、研修をはかる。
		現代文の授業において、論理的に文章を読解する姿勢を育てる。	B		
		文法と句法を段階的に学ばせ、古典に対する基礎的力を育成する。	A		
	【2年】現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	各分野のテキストに年間を通して取り組み、基礎から応用へのステップアップを図る。	A	A	
		古文単語小テストを定期的実施し、古語力を高める。	A		
		古典分野においては、大学入試を意識した課題を与えることで、徐々に大学受験に対応できる学力を身につけさせる。	B		
	【3年】現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる	受験を意識した授業の実践を心がける。	A	A	
		小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる	B		
		知識問題についての小テストを定期的実施し、入試に対応する実践力を高める。	A		
教科 地理 歴史	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	A	A	授業公開や教科会を通じて相互に指導方法の情報交換を行う必要がある。
		授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A		
		他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B		
		定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。	B		
		教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い、指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	A		
	興味・関心が持てる授業に努める。	資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	A	A	
		板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。	A		
		授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B		
	センター試験で高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A	A	
		課外授業のバリエーションを充実させ、生徒の積極的な参加を呼びかけるとともに、実践演習を通じて難関大学合格に向けた受験指導を行う。	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題				
教科	公民	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	A	A	A	授業公開や教科会を通じて相互に指導方法の情報交換を行う必要がある。				
			授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A							
			他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B							
		興味・関心が持てる授業に努める。	資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	A	A						
			板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。	A							
			授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B							
		センター試験で高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A	A						
			課外授業を実施し、授業で触れた重要事項について、演習を行うことで知識の定着を図る。	A							
		教科	数学	1年 様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図る。			B	B	A	基礎学力の充実と 上位者のさらなる学力向上
					授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。			B			
定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	A										
2年 受験科目として科目の重要性を意識させ、きめ細かい指導の下、授業内容を確実に定着させる。	生徒の理解を高め、学習に取り組みやすいように授業展開や進度の工夫をする。			A	A						
	平常時及び長期休業中の課題への取り組みを徹底させる。			A							
	授業進度に合わせ定期的に節末テストや小テストを実施し、基礎学力向上を図る。			B							
3年 生徒の進路実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践に心掛ける。			A	A						
	各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。			A							
	各分野の問題演習を行うことにより、受験に対応できる能力を養う。			A							

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題
教科	理科	授業内容を深化させ、生徒の基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを図り計画的な指導を行う。	A	B	A	・実験などの実施によって生徒の興味・関心を引き出しつつ、面談、添削などのきめ細やかな個別指導を行い学力の向上を図る。
			生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストを通して、学習習慣の確立を図る。	B			
			必要に応じ、各科目の担当者が個別の面談・指導を行い、学力の向上を図る。	B			
		興味・関心が持てる、授業展開に努める。	実験・実習をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、理解の深化に努める。	A	A		
			SSH事業と関連させながら日常現象と科学の関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高める。	A			
			PCを利用したシミュレーションやDVDなどの視聴覚教材などを活用し、授業への興味・関心を高める。	A			
教科	保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	A	A	A	授業中における安全管理や怪我がおきたときの対応。熱中症への対策。視聴覚教材の使用。
			各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。	A			
			各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。	A			
			熱中症対策、怪我や安全管理に留意して、授業を行う。	B			
		健康に対する意識・実践力	健康に対する知識や実践力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	A	A		
			社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解	A			
教科	芸術	芸術への理解	芸術の歴史を学び、芸術する喜びを味わう。	A	A	A	生徒のグレードアップのため、一つ一つ丁寧に授業を進めたい。
			表現技法の会得と感性を磨く	A			
			芸術を通して、自己のグレードアップをはかる。	B			
教科	外国語	【1年】英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週小テストを実施し、基本的な語彙を身につけさせる。	A	A	A	・文法事項の定着のために現在行っている小テストなどを継続的に続ける。 ・リスニング力強化のために課題や授業での取り組みを工夫する。
			基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。	B			
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B			
			ALTとのティームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A			
			英検受験を奨励し、準2級および2級の合格を目指す。	A			
			ディベート活動につながる英語の力を身につけさせる。	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科	外国語	【2年】基礎力の増強および応用力育成・向上に努め、生徒をより高い目標へと鼓舞する魅力的なわかる授業を展開する。	小テストを継続し、基本的な語彙を定着させる。	A	B	・語彙力と文法力をさらに強化する。 ・学力下位層への指導を手厚く行っていく。	
			基本文法事項に習熟させ、英文を読む力と書く力を高める。	B			
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B			
			ALTとのティームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A			
			英検受験を奨励し、2級および準1級の合格を目指す。	A			
		【3年】生徒の希望進路の実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	ディベート活動を実施し、英語の運用能力と思考力を身につけさせる。	B	A		
			平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせる。	A			
各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A						
教科	家庭	基礎的・基本的な知識と技術の習得	・実践的・体験的な学習を通して、家庭の在り方や家族の人間関係についての基礎基本を習得する	A	A	2年次での履修であるため、クラスの人数が均等にならない。そのため、実習には支障をきたしている。クラス毎の人数に合った均等な実習方法、指導、展開に今後とも工夫が必要である。	
		家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力の育成	・生活の中から問題点を発見し、課題を解決するため事例研究を行い、様々な討論法により自己表現力の向上と、自己理解を通しての課題解決を図る	B			B
		自分の生活の向上を図る力と実践的な態度の育成	・具体的な事例や演習を通して考えたり、話し合いや調査・研究を取り入れたりすることで、生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る	A			
教務	SSH運営をさらに充実させる教育課程の編成	SSHの研究成果を生かす教育課程の編成を行う。	A	A	校内規程の内容をさらに精選し、検討を行う。  広報活動をさらに充実し、中学校や地域との連携を深める。		
		観点別評価の実施を行う	A				
		生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。	B				
	円滑な教育活動の推進	校内諸規定の検討整備をすすめさらなる適正化を図る。	B	A			
		各部・各学年との連絡調整機能を強化し、教育活動の円滑化を図り教育目標の達成に努める。	A				
		授業時間確保のため、時間割の円滑な運営に努める。	B				
	地域、保護者との連携の強化	ホームページ、学校案内、ハイスクールガイド等による効果的な学校広報に努める。	A	A			
		いばらき教育月間に学校公開を行い、地域に公開する。	A				
		中学校等の訪問と充実を図り、あわせて地域との連携を深める。	B				
		生徒、保護者へのアンケートを実施し、教育活動に生かす。	A				
生徒指導	基本的生活習慣の確立	登校指導による挨拶の励行、頭髪・服装の正常化。	A	A	登下校時の自転車の乗り方指導 ・並列走行 ・イヤホン運転		
	教育相談体制の確立	カウンセリング事業の実施。専門家の積極的・効果的な活用。	A				
	安全教育の充実	登校指導による交通安全指導。交通講話により意識を高める。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の主体的進路選択への支援	総合学習の時間や大学・企業訪問、先輩の語る仕事を聴く会、大学研究会などを通して、3年間を見通した計画的な進路指導を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとってより利用価値の高い進路指導室にする。</li> <li>・先生方の授業の質をさらに高めることができるように、研修会や個人研修の機会を増やして、指導力向上に努める。</li> </ul>
		進路講演会や学年集会などを通して、生徒の進路意識を高め、進路実現のために何をなすべきかを考えさせる。	A			
		生徒面談や保護者面談を通して、生徒一人ひとりの希望や適性を踏まえた生徒に寄り添った進路相談を行う。	A			
		進路関連資料の精選と提示の工夫に努め、生徒にとってより利用価値の高い進路指導室にする。	B			
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒が第一志望校に合格できるよう、授業の質をさらに高めるとともに、各種研修会を計画的に実施して、教科指導力向上に努める。	B	A		
		より適切な進路指導ができるよう模試分析会や進路検討会、出願検討会を適宜実施するとともに、進路指導部・学年・教科等それぞれの間のコミュニケーションの充実に努める。	A			
		添削指導や特別講座(課外)など、難関大学合格を目指す指導を組織的に行うとともに、難関大学入試の指導についての教員の研修を支援する。また、最難関指導者会議を立ち上げ、計画的に開催をすることで最難関大複数合格を実現するための指針をつくる。	A			
		上位層だけでなく下位層の底上げを図る取り組みを実施する。さらに、手薄となる中位層への指導を学年中心に検討し、手立てを講じる。	A			
特別活動	部活動と学業の両立	クラス担任と部活動顧問間で問題のある生徒の情報を共有し、両面から指導する体制づくりを行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化祭 日程の見直し 内容の見直し (規約, 品格, 安全)</li> <li>○音楽祭・体育祭・白幡の内容見直し</li> <li>○実力考査前の部活停止期間の見直し</li> <li>○内規の見直し</li> </ul>
		生徒達の状況を理解し、各部活動の効率化・充実化を図るよう、部活動顧問に働きかける。	A			
		各学年、進路指導部、各部顧問との連携を強化し、学校行事と部活動が円滑に連携できるように努める。	A			
	生徒会活動の活性化	生徒会役員と定期的に話し合いを持ち、学校行事の内容をより良いものにする。	B	B		
		学校行事を通して、色々な生徒達に達成感を味わわせ、生徒会活動への参加意欲を高める。	A			
	応援委員の活性化	応援委員会の活動を白龍祭や応援練習を通しアピールし、委員の人数確保と、全校生徒の応援に対する意欲を高める。	A	A		
応援の練習方法や内容を工夫し、より良い応援の方法を構築する。		A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題
保健	生徒の心身の健康	学校環境の安全に留意し、点検などを行う。	B	A	A	<p>普段の清掃を徹底させる。</p> <p>非常時に自分で考えて行動するという意識を持たせる。</p>
		保健室の効果的な運用に努める。	A			
		担任・学年・生徒指導部などと協力し、生徒の心のケアの充実を図る。	A			
		性教育講座を通して健全な性への認識を持たせる。	A			
	防災意識を高める	避難訓練をととして自分の身は自分で守るという意識を持たせる。	A	A		
		竜巻など火災や震災以外の災害にも対応できるようにする。	B			
	学習環境の整備	清掃分担を明確にし、清掃の徹底を図る。	A	A		
		防火管理体制を充実させ、防災避難訓練を実施し、非常時に備える。	A			
空調設備の適切な管理運営と快適な学習環境作りに努める		A				
渉外	PTA活動の活性化及び学校と家庭の連携強化	PTA総会や支部総会への参加率を高めるよう努める。	B	A	A	PTA総会・支部総会への参加率を少しでも高めるための特別な企画を考えたい。
		PTA役員会や生徒指導委員会・PTA便り編集委員会などの委員会活動を通じて、保護者との連携強化に努める。	A			
		保護者向けの広報活動を積極的に行うとともに文化祭のPTA企画への参加率を高めるよう努める。	A			
図書	図書館の円滑な運営	担当職員間で適切な業務分担を行い、連絡を密にするとともに、授業や課題研究などでの図書館利用の促進に努める。	A	A	A	本に親しみ、読書意欲をかきたてるような読書環境の整備。
		昼休み・放課後の当番制の徹底。	A			
	蔵書の充実と利用の促進	展示レイアウトや図書選びのアドバイスにより利便性の向上を図る。	A	A		
		学年や教科の推薦図書および小論文関係の図書を充実するとともに、生徒の購入希望図書にも留意することで利用の促進を図る。	A			
	図書委員会活動の充実	生徒図書委員研修会への参加による図書委員の資質向上。	B	A		
		日常の係り活動の活発化(カウンター当番・図書館便りの編集・図書館環境の整備など)。	A			
	各種コンクールへの参加	読書感想文・感想画などの募集および選考(教科・部動活との連携)。	B	B		
	視聴覚機材の円滑な活用	学校行事などで放送機器の円滑な運用に努める。	B	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題
SSH	生涯にわたる主体的な学びの原動力である、持続的な学習意欲や知的好奇心を高め、未来への飛躍を実現するチャレンジ精神やリーダーシップを育む。	協働的な探究活動を行い、その成果を踏まえて地域の小中学生への科学講座等を行うこと、大学や研究所等の研究者と直接交流することなどを通して、学習意欲や知的好奇心を高め、チャレンジ精神やリーダーシップを育む。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内生徒研究発表会等における質疑応答がより活発になるような工夫を行い、生徒の主体性・積極性を涵養する。</li> <li>・異なる教科・科目を融合させたカリキュラム開発を充実させることで、生徒の知識の理解を深め、技能をより高める。</li> </ul>
		協働的な探究活動を行うことや教科・科目を融合した意外性や新たな発見に富む授業により、知識・技能を確実に修得する。	B			
	基礎的な知識・技能を確実に修得し、科学的なものの見方・論理的思考力を養い、問題を解決する能力を育成する。	協働的な探究活動やディベートの学習、教科・科目を融合した授業により、物事を多様な観点から論理的に考察し、問題を解決する力を育成する。	A	A		
		和算を取り入れた協働的な探究活動や、算額の講習、課題研究の発表を小中学生に行うなど地域の小中学生と交流することで、次の世代の数学への関心を高めるとともに、自らの探究活動を検証し、活動の質を高める。	A			
日本人としてのアイデンティティを大切にしながらも、グローバル社会で世界の人々と協働するためのコミュニケーション能力および発信力を身につける。	海外への修学旅行やサイエンスキャラバンなど、外国の人々と交流することで、日本人としてのアイデンティティを育み、様々な価値観を学び、視野を広げ、コミュニケーション能力および発信力を高める。	A	A			
	協働的な探究活動や女性科学者との交流は、理系を選択する女子、さらには科学者を目指す女子が増えるとともに、理系分野で活躍する女性に対する男子生徒の理解を深める。	B				
第1学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行、清掃の徹底、容儀指導の徹底、時間厳守(5分前行動、切替意識、期限厳守(計画性)等)の凡事徹底を図るべく、学年全体として共通認識を持ち、常に生徒状況を確認しながらきめ細かな指導に取り組む。	B	B	B	引き続き基本的な生活習慣を崩さないように指導し、学習習慣の定着をはかっていく。
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。また、1年次後半には、生徒が自発的に学習に取り組めるような指導を展開する。	A	B		
		生徒が授業内容をしっかり定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、生徒の課題への取り組みおよび定着が徹底されるように指導する。	B			
		学習記録簿(スタディーレコード)を活用しながら、生徒一人一人の状況に応じて適切な学習指導を行う。	B			
	進路指導の充実	LHRおよび道徳の授業を中心として、進路意識が高められるように年間計画を立案し、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、2年次の文理コース選択に対して適切な指導を行う。	B	B		
		進路指導部と連携し、適切な時期に適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。	B			
		進路指導部、SSH委員会、国際交流委員会と連携し、生徒の進路目標設定に意義のある行事を企画・実施する。	A			
心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活が送れるよう、保健部や保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	A	A			



評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
第2学年	基本的生活習慣の確立	凡事徹底。気持ちの入った挨拶を心がける。時間を守る。清掃をしっかりと行う。授業と休み時間の切り替え。勉強と部活の切り替えを明確にする。	A	A	A	未だに学習に対する意識の低い生徒に対しては受験生としての自覚を一日も早く持たせ、学習に対する姿勢を改善し、生徒一人一人の進路実現を目指し丁寧に指導していく。
	進路指導の充実	LHRなどを活用し、年間計画に基づいて、進路意識、職業観などを育む。	A	A		
		進路指導部と連携し、適切な進路情報を生徒と保護者に提供する。	A			
		SSH部と連携し、将来グローバルに活躍する人材育成に努める。	A			
	学習習慣の確立	家庭学習が十分にされるよう、教科担当と学級担任が連携を図りながら、適切な時期に適切な内容・適切な量の課題を与える。	B	B		
		学習記録簿を使い、学習状況を担任・学年で把握し、平日2時間以上、休日4時間以上の学習時間確保を促す。	B			
	総合学習の推進	C組は探究活動として課題研究に取り組む。G組も探究活動を行い、英語によるプレゼンテーションにつなげる。白幡クラスも計画的に前半は修学旅行の事前学習、後半はポスター発表のための準備を行う。	A	A		
心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題を早期発見、早期指導に努め、保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	A	A			
第3学年	学力の向上	2年次までの取り組みを継承し、予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら、さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動引退後、受験生としての切替がやや遅れ、センター試験の得点に影響があった生徒もいた。改善できるように指導していきたい。</li> <li>「凡事徹底」をスローガンにしてきたが徹底できず、生徒の緊張感に欠ける行動に繋がってしまった面も見られたので、改善していきたい。</li> </ul>
		各教科で、年度当初から入試を意識した指導を行い、適切な時期に、適切な課題、適切な指示を与えるように努め、学年教科担当者が相互に連携をとりながら、学習意欲の向上を図る。	A			
		定期考査・模擬試験の分析結果を授業に反映させ、授業内容の充実を図るとともに、受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	A			
	基本的生活習慣の確立	最上級生として、後輩の模範となるように規律ある生活に努め、生活面・部活動面において中心となって取り組むように指導する。	A	A		
		生徒指導部と連携しながら、きちんとした服装・頭髪、時間の厳守、挨拶の励行などについて、集会やLHRで継続的に指導する。	B			
	進路指導の充実	生徒の学習成績や適切な進路情報を、学年団で共有し、生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	A	A		
		LHR、学年集会、講演会等を通して、入試や志望校の研究に努め、目標に向かって邁進する環境・雰囲気醸成する。	A			
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし、必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら、適切な進路指導ができる態勢をつくる。	A			
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題の早期発見、早期指導に努め、保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	A	A		

※評価基準:A, B, Cの3段階で評価する。 A(達成された), B(ほぼ達成された), C(達成されなかった)